

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<25週> 手足口病 九州地方と群馬県、奈良県、和歌山県などで定点あたり報告数が多い / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<手足口病> 第25週の報告患者総数は10,135で、定点あたり報告数は3.4  
<腸管出血性大腸菌感染症> 第24週の報告患者総数は97で、うち有症者は57



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎 / 手足口病 / 咽頭結膜熱 / 流行性角結膜炎



IASRからの速報  
P.6-7

インド、東南アジア旅行者からの *Salmonella* Typhi の検出状況 / 調理用ミキサーを介した *Salmonella* Enteritidis による集団食中毒事例 愛媛県



海外感染症情報  
P.8-9

デング熱 / デング出血熱 2000年世界状況



感染症の話  
P.10-13

HPS  
ハンタウイルス肺症候群; ウイルスはネズミを自然宿主とし、予防にはネズミとの接触を断つことが重要である



読者のコーナー  
P.14



グラフ総覧(25週)  
P.15-21



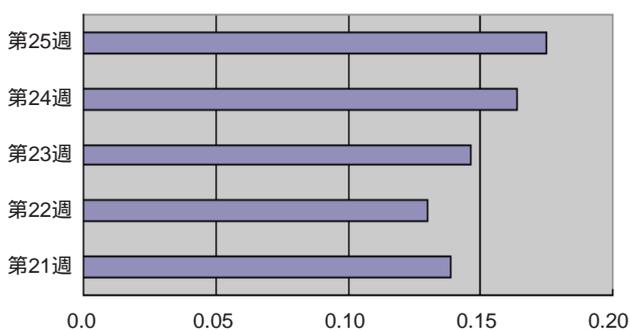
25週のデータ  
P.22-29



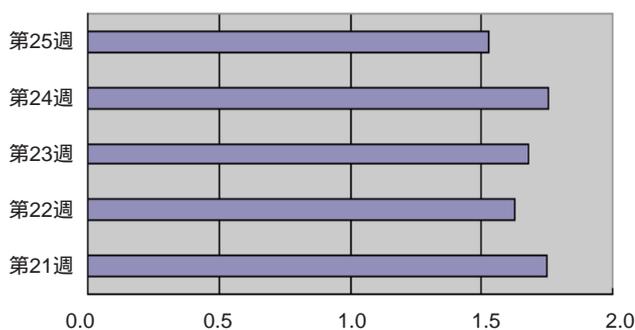
## 最近の注目疾患-5週間の動き

咽頭結膜熱は3週続けて前週より定点当たり報告数が多くなっており、患者報告数は増加傾向にある。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎の定点当たり報告数はこのところ大きな増減は無く、ほぼ横ばいとなっている。水痘の定点当たり報告数は前週より少なくなった。ヘルパンギーナは、7月下旬のピークシーズンに向け患者報告数が著明な増加傾向を示している。

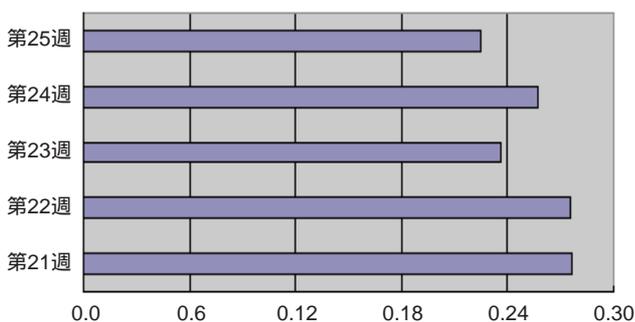
咽頭結膜熱



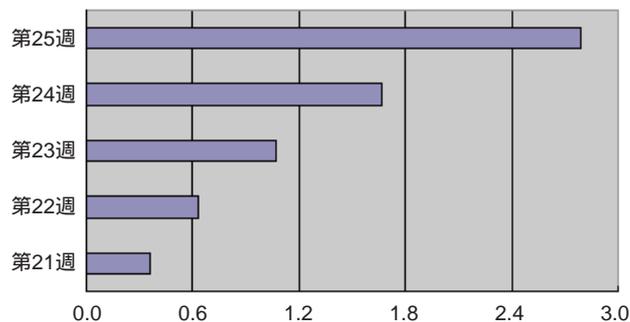
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



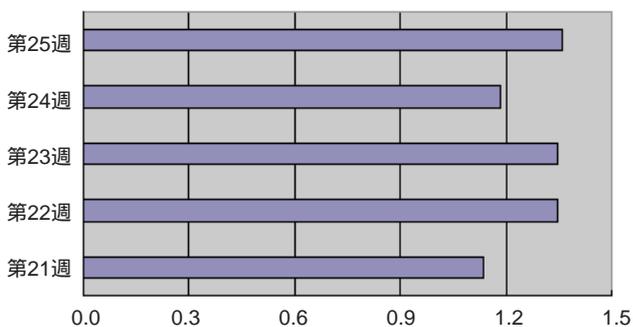
水痘



ヘルパンギーナ



流行性角結膜炎



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



# 注目すべき感染症

## 手足口病流行状況

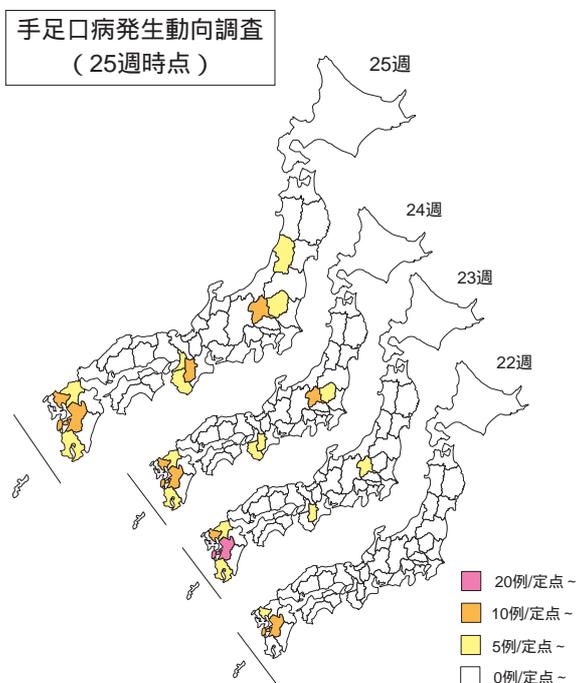
今シーズンは第13週ごろより流行曲線が立ち上がり始め、第20、21週と患者報告数が急増した。流行の大きかった'90年、'95年の流行曲線も第19週頃より急速に立ち上がっており、今年の流行曲線も現在のところこれらの流行年に見られたパターンに近く、今後疾患の動向に注意が必要である。

第25週(6月19日～6月25日)の、全国定点医療機関からの手足口病報告患者総数は10,135で、定点当たり報告数は3.4であった。定点当たり報告数が多いのは、以下の地図グラフで示すとおり、佐賀県(定点当たり報告数19.5)、熊本県(15.8)、鹿児島県(9.3)などの九州地方と、群馬県(14.8)、奈良県(11.1)、和歌山県(9.8)などである。

患者の年齢階級別では、2歳以下の乳幼児が4割、5歳までで全体の9割を占めている。患者発生ピークは1～3歳にある。手足口病は小児科定点から報告される定点把握の疾患であるが、実際はこれらの定点医療機関を受診した成人例も報告されており、20歳以上の患者が全体の1%程度見られる。

病原体報告によると、無菌性髄膜炎から分離されたウイルスは第25週ではEV71が最も多く11件であった。また、病原体検出情報事務局に入った情報によると、熊本県の手足口病患者及び無菌性髄膜炎患者からはEV71が分離されており、奈良県、山形県の手足口病からはコクサッキーウイルスA16型が分離されている(5ページ病原体情報参照)。

手足口病は通常予後良好な疾患であるが、EV71は他のウイルスより中枢神経系の合併症の発症率が高いことが知られている。



## 腸管出血性大腸菌感染症流行状況

腸管出血性大腸菌感染症は、1996年7月の大阪堺市での大規模な集団発生を契機に同年8月より指定伝染病となり、患者と保菌者の届け出が義務づけられた。さらに、1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」においては、3類感染症として位置づけられ、全臨床医に患者及び無症状病原体患保有者を届け出る義務が課せられている。患者数は1997年1,941人、1998年2,077人、1999年2,990人となっており、いずれも夏季の7～8月に患者数がピークに達し、冬季には減少するパターンとなっている。

2000年第25週(6月19日～6月25日)の、全国定点医療機関からの腸管出血性大腸菌感染症患者総数は97で、うち有症者は57であった(Vero毒素産生性大腸菌O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は708となり、東京都、大阪府、福岡県など大都市で報告数が多い。



## 病原体情報

### ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26

2000年(2000年6月26日現在報告分)

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が138件、O26が24件であり、5月以降ではO157が札幌市、山形県、岩手県、千葉市、岐阜県、富山県、大阪府、滋賀県、和歌山県、広島市、島根県、佐賀県から、O26が札幌市、岩手県、岐阜県、富山県、大阪府、滋賀県、島根県、福岡市からの分離報告がされている。

### 無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス

2000年(2000年6月26日現在報告分)

エコーウイルス4型が福岡市から1件(第16週)、エコーウイルス6型が福井県(第1週)と京都市(第4週)から各1件、エコーウイルス9型が奈良県から5件(第15,16,17,20週)、エコーウイルス11型が奈良県(第3週)と高知県(第20週)から各1件、コクサッキーウイルスB4型が北九州市から1件(第8週)とB5型が香川県から1件(第15週)、エンテロウイルス71型が熊本県から1件(第14週)、ムンプスウイルスが東京都から4件(第12,17,18週)、広島県から3件(第8,9,13週)と広島市から1件(第14週)、名古屋市から1件(第13週)、大阪市から1件(第20週)、香川県から1件(第21週)の分離報告があった。

### 手足口病患者から分離されたウイルス

2000年(2000年6月26日現在報告分)

コクサッキーウイルスA16型が大阪市から1件(第10週)、山形県から9件(第16週:1件、19週:3件、20週:4件、21週:1件)と奈良県から2件(第18,20週)、栃木県から7件(第21週)、コクサッキーウイルスA6型が栃木県から1件(第21週)、コクサッキーウイルスA9型が新潟県から1件(第15週)、エンテロウイルス71型が神奈川県から2件(第4,6週)、大阪府から2件(第6,9週)、熊本県から1件(第13週)、福岡市から2件(第14,17週)、北九州市から1件(第18週)の分離報告があった。

### 咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス

2000年(2000年6月26日現在報告分)

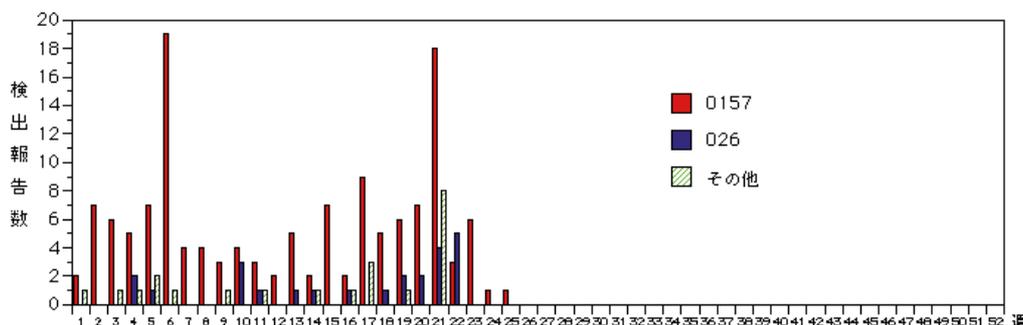
アデノウイルス1型が川崎市と長野県(第8週)、新潟県(第14週)、大阪府(第20週)、新潟県(第21週)からそれぞれ1件、2型は長野県(第2週)、広島市(第8週)、東京都(第19週)、大阪府(第20週)、北九州市(第20週)、高知県(第21週)から各1件、3型は大阪府(第3週)と広島市(第16週)からそれぞれ1件、4型は新潟県(第5週)から1件の分離報告があった。

### 流行性角結膜炎患者から分離されたウイルス

2000年(2000年6月26日現在報告分)

岡山県からアデノウイルス4型が2件(第2,5週)、アデノウイルス7型が1件(第9週)、アデノウイルス37型が1件(第5週)、神奈川県(第2週)と川崎市(第5週)からアデノウイルス19型が各1件、川崎市からアデノウイルス2型が1件(第16週)、香川県からアデノウイルス3型が1件(第14週)、札幌市からアデノウイルス8型が1件(第18週)の分離報告があった。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2000年(病原微生物検出情報:2000年6月26日現在報告分)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



## インド、東南アジア旅行者からの *Salmonella Typhi* の検出状況

2000年4月～5月上旬にかけてインド、東南アジア旅行者からの *S. Typhi* の検出が増加している。この期間に、17名の腸チフス患者の発生が全国から報告された。これらの腸チフス患者は全員海外渡航歴があり、渡航先は主にインド、東南アジアで、渡航先で感染したものと考えられた。患者のほとんどが20歳代で、春休みを利用した海外旅行での感染であった。

分離された *S. Typhi* のファージ型は多くがE1であったが、ファージ型E1のチフス菌は主にインドへの渡航者から分離され、アンピシリン、クロラムフェニコールなど従来腸チフスの治療に使われていた抗生物質が効かない薬剤耐性チフス菌が多い。さらに、これら多剤耐性チフス菌には、現在の腸チフス・パラチフスの治療の第1選択薬であるニューキノロン剤も効きにくいことがある。

インドへ旅行する人は現地での水や食べ物には十分な注意をすることが必要である。

国立感染症研究所細菌部 広瀬健二 田村和満 渡辺治雄

(病原微生物検出情報6月号-IASR vol.21 No.6, 2000-掲載記事より)

## 調理用ミキサーを介した *Salmonella Enteritidis* による集団食中毒事例 - 愛媛県

1999年11月11日、愛媛県A町内の医療機関から嘔吐・下痢等の食中毒症状を呈した20数名を診察した旨の連絡が伊予三島保健所にあった。同保健所で調査したところ、同町内の2幼稚園、5小学校、1中学校の園児、児童、生徒および教職員など2,153名中904名が発症(発症率42%)、311名が医療機関を受診し、15名が入院していることがわかった。さらに、すべての患者は、D学校給食センターで調理された給食を食べていることも判明した。疫学調査の結果、患者の発症日時は11月6日～11月13日までの8日間で、比較的長期であった。

西条中央保健所で実施した食品、ふき取り材料、患者便等の細菌検査の結果、患者の便164件中103件から *S. Enteritidis* が分離された。さらに、11月5日の給食である「ごまあえ」と「ごまあえ」調理時にゴマと醤油の混和に使用した調理用ミキサーの羽根付け根部分のふき取り材料からも *S. Enteritidis* が分離された。いずれの分離株ともファージ型は1型であった。

*S. Enteritidis* が分離された調理用ミキサーは使用後、洗浄消毒されるが、羽根を取り外しての分解掃除は行われていなかった(事件後の調査で初めて羽根を取り外したところ、羽根の重なり合った部分には食物残渣が確認された)。また、このミキサーは卵の攪拌に用いられることが多く、11月5日以前にも11月1日と2日に卵の攪拌に使用されていた。そのため、「ごまあえ」調理時には既にサルモネラに汚染されていたと考えられた。さらに、11月8日の給食である「ちぐさやき」(卵、人参、ほうれん草、鶏肉ミンチを混ぜ合わせ、自動焼き物機で焼いたもの)の調理にも、この

ミキサーが使用されていた(11月9日、10日には使用されていない)。この「ちぐさやき」は、調理工程の記録から加熱が不十分であったことが確認されており、患者の発生が長期間であったことから推察して、「ちぐさやき」もミキサーを介してサルモネラに汚染された結果、食中毒の原因食品になったと判断した。なお、ミキサーが汚染されていたにもかかわらず、11月5日になるまで食中毒の発生が見られなかったのは、多くの場合、ミキサー使用後に食品の加熱工程があり、この工程で細菌が死滅したためと推察した。

以上のような疫学調査および細菌学的検査から調理用ミキサーの洗浄不足によるサルモネラ汚染が今回の食中毒の発生につながったと結論付けた。

愛媛県伊予三島保健所	薦田洋司	稲荷公一
愛媛県西条中央保健所	北川之大	今城巧次
愛媛県立衛生環境研究所	田中 博	大瀬戸光明

(病原微生物検出情報6月号-IASR vol.21 No.6, 2000-掲載記事より抜粋、詳細は同号参照)



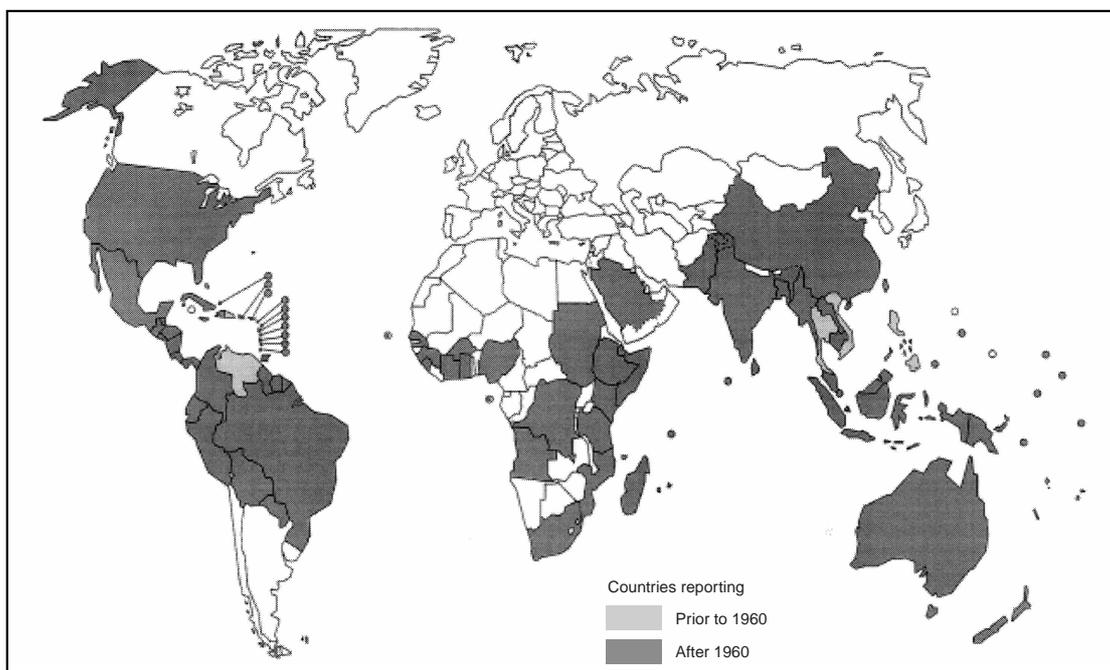
## 海外感染症情報

### デング熱 / デング出血熱 - 2000年世界状況

WHO/WER No.24, 2000,75,193-196

デング熱は蚊によって媒介される病気で、近年国際的な公衆衛生上の重要な問題となっている。過去30年間にデング熱の発生地域は大きく拡大し、患者数は著しく増加している( Map1 )。現在デング熱は100カ国以上で流行がみられ、世界人口の約40%( 25億人 )の健康を脅かしており、特に熱帯および亜熱帯地域の都市部と都市部周辺で顕著である( Fig.1 )。1998年にはWHOに

Map 1. Emergence of dengue/dengue haemorrhagic fever worldwide, before and after 1960



\* Shading denotes countries with recent endemic transmission. For some of these countries, dengue is limited to specific areas.

The designations employed and the presentation of material on this map do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries.

120万人以上の患者の報告がなされ、年間患者数は過去最大となった( Fig.2 )。年間5,000万人がデング熱を発症し、40万人がデング出血熱を発症すると推定されている。死に至る可能性がある合併症のデング出血熱は1950年代に初めて認識され、現在、アジアの数カ国では子供の主要な死亡原因となっている。デング熱およびデング出血熱の増加は、人口増加と水たまりなどが適切に除去されないで都市化されたこと、旅行や貿易によるデングウイルスの世界的規模の拡大、ベクターコントロール計画が後退したことによる。

デングウイルスには4種類の血清型があり、1つの型への感染はその型にのみ免疫を与える。すなわち、別の型のデングウイルスには感染する可能性がある。発熱と筋肉痛が典型的なデング熱の特徴だが、感染の結果出血症状やショック症状( デング出血熱 )を引き起こすことがある。デング熱の初回感染時にデング出血熱を起こす危険性は約0.2%だが、2度目の感染時に別の血清型のデングウイルスに感染した場合には、その危険性は10倍に増加する。適切な治療が行われない場合、デング出血熱の致死率は15%に上る。特別な治療方法はないが、慎重な患者の管理

と徹底的な補助療法を行えば、致死率を1%以下に減少させることが出来る。 Dengue熱のワクチン開発は難しい。なぜならこの病気は4種類の異なる血清型によって引き起こされるため、ワクチンは4種類の型すべてで免疫が獲得されなければならない。ワクチン接種者は4種類の全ての型で免疫が獲得されないで Dengue出血熱を起こす危険性が増加する。現在ベクターである蚊のコントロールだけが Dengue熱および Dengue出血熱を減らすことが出来る唯一の方法である。

一度 Dengue熱が流行すると抑制することは難しい。それゆえに、流行の拡大を最初に見つけたとき抑制対策を実施することが重要である。そのためには効果的な疾病サーベイランスプログラムと介入計画が求められる。検体の収集、検査、結果の報告と分析を容易にするサーベイランスシステムが流行の予測にも利用される。 Dengue熱の専門家たちは、1999年10月のWHOの会議において、公的機関と民間部門が協力して、有効で持続できる Dengue熱抑制プログラムを開発し、それによって教育を促進し、また、WHOの標準的な防疫処置を行って、 Dengue熱流行国の死者数を減少させるよう勧告した。

Fig. 1 Dengue/dengue haemorrhagic fever, reported cases in 3 WHO regions, 1989-1998

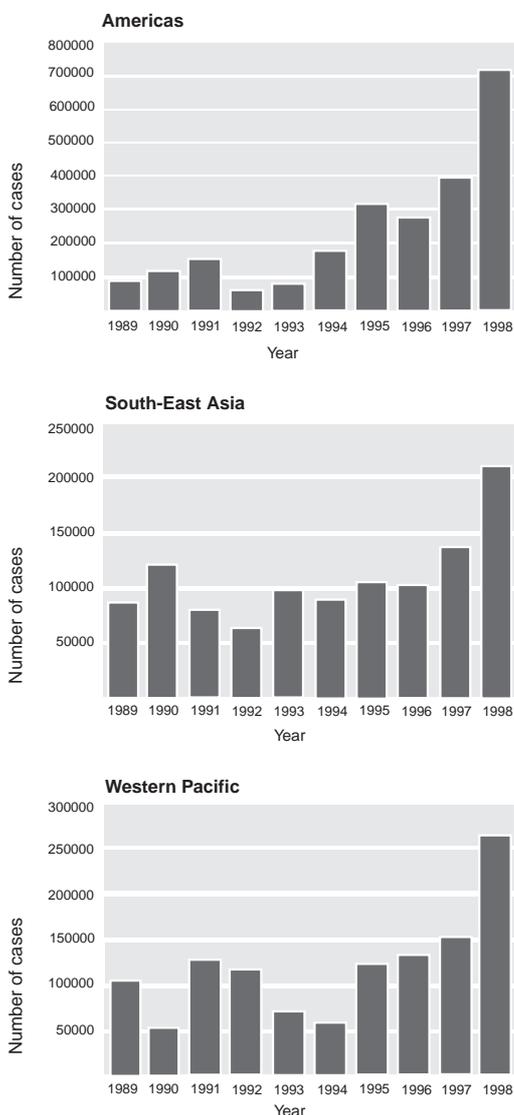
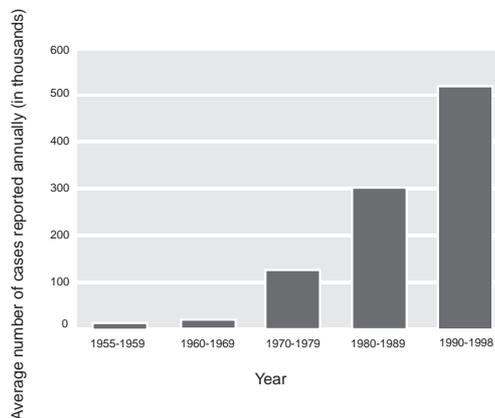


Fig. 2 Dengue/dengue haemorrhagic fever, 1955-1998





## 感染症の話

### HPS (Hantavirus Pulmonary Syndrome, ハンタウイルス肺症候群)

ハンタウイルスによる感染症が日本で注目されたのは1970年代半ばから各地の医学系動物実験施設においてラット取扱い者の間に不明熱の患者が相次いで発生した時で、当時は病因が不明であった(1984年まで発生が続き、合計127例、うち1例死亡)。それに先立ち1960年代、大阪梅田の居住環境の悪い地区において、不明熱の発生が報告されていた(119例うち2例死亡)。さらに先の大戦前に、中国とソ連邦の国境を流れるアムール川の流域で流行があり、また旧日本軍が中国東北部に進駐した際に不明熱に遭遇し、「流行性出血熱」として報告された。その後、朝鮮戦争のときに国連軍のあいだに約3,200例の不明熱が報告され、大いに注目された。韓国高麗大学の李らが、1976年に流行地のアカネズミ (*Apodemus*) から病因ウイルスを初めて分離し、アカネズミを捕獲した場所の川の名をとって、ハンタン (Hantaan) ウイルスと命名した。上にあげた疾病はハンタンウイルスの仲間起因するもので、腎症候を伴う出血熱をおこすので腎症候性出血熱 (HFRS, Hemorrhagic fever with renal syndrome) と統一して呼ぶこととなった。我が国では、1982年に感染研と北大獣医学部により札幌医科大学のラットから原因ウイルスが国内で初めて分離された。その後の研究の進展に伴い、プニヤウイルス科の5番目の新しい属としてハンタ (hanta) ウイルス属と命名されたのである。米国においてはガイデユセックらによりハタネズミ (*Microtus*) のあいだにウイルスが保有されていることが示されたが、動物学者などに抗体保有は認められたもののヒトに対する病原性は不明であったため、あまり問題視されていなかった。ところが1993年、米国南西部で肺水腫を伴う急性の呼吸困難による死亡がナバホインディアンのあいだで複数報告された。腎症候を伴わず、急性の呼吸器症状を示し約50%が死亡するという疾病が出現したが、これがはじめて問題化したHPSの発生であった。その後、1995年から、南米からもHPS発生の報告が続々とでている。

#### 疫学

プニヤウイルス科のウイルスの多くのものは節足動物媒介性であるが(クリミア・コンゴ出血熱ウイルス、ダニ媒介)、ハンタウイルスはネズミ媒介性であるのが特徴的である。多くは、新鮮な糞または乾燥した糞、尿中からエアロゾルとしてウイルスを吸い込むことにより感染する。ネズミの咬傷やネズミに触れたものを介して鼻、目または口を触れることでもおこる。

HFRSを起こすハンタウイルスはユーラシア大陸に広く分布している。主要なものは朝鮮半島、中国の北部から中部及び極東ロシアにみられるセスジアカネズミ (*Apodemus agrarius*) を宿主とするハンタンウイルスである。中国ではおおよそ年間数万人、ロシアでは数千人、韓国で数百人の規模での患者がでている。広く世界的にドブネズミ (*Rattus norvegicus*) に保有されているのはソウル (Seoul) ウイルスであり、日本では1984年の実験室感染患者の後ではでない。我が国の港湾地区のドブネズミは今日においてもウイルスを保有している。それによる患者発生の報告はでないが注意する必要がある。

当初問題となった米国南西部のHPSウイルスはシンノンブル (Sin Nombre) ウイルスで、これを保有するネズミはシカ (ディア) マウス (*Peromyscus maniculatus*) である。このネズミは北米大陸

に広く分布しているポピュラーな種で、生息数も多い。人家には入りやすい性質がある。他にコットンラット等、かなりのネズミ種のあいだに保有されている(表1)。

米国のHPSは、1993年から1997年6月までに28州で164例報告された。米国南西部のフォーコーナー(4州が接するのは唯一これらの州のみ)の州ではニューメキシコ29例、アリゾナ22例、コロラド11例、ユタ10例であった。平均年齢は36歳、男性が99例、121例が白人、38例がアメリカインディアンであった。致死率47%と極めて高い死亡数であった。



シカ(ディア)マウス、(*Peromyscus maniculatus*)  
National Audubon Society, Field Guide to North American Mammals

表1 主要なハンタウイルス  
分布、宿主ローデント、ヒトの病気との関係

ウイルス	分 布	主 要 宿 主	ヒトの病気
Hantaan	アジア、ロシア	<i>Apodemus agrarius</i> (アカネズミ)	重篤なHFRS
Seoul	世界的	<i>Rattus norvegicus</i> (ドブネズミ)	軽・中等度のHFRS
Dobrava/Belgrade	バルカン	<i>Apodemus flavicollis</i> (アカネズミ)	重篤なHFRS
Puumala	スカンジナビア、 ヨーロッパロシア、バルカン	<i>Clethrionomys glareolus</i> (ヤチネズミ)	軽症のHFRS
Prospect Hill	北米	<i>Microtus pennsylvanicus</i> (ハタネズミ)	不明
Sin Nombre	北米	<i>Peromyscus maniculatus</i> (シカマウス)	HPS
Black Creek Canal	米国南東部(フロリダ)	<i>Sigmodon hispidus</i> (コットンラット)	HPS
New York - 1	米国東部	<i>Peromyscus leucopus</i> (シロアシマウス)	HPS
El Moro Canyon	米国西部	<i>Reithrodontomys megalotis</i>	不明
Bayou	ルイジアナ	<i>Oryzomys palustris</i> (ライスラット)	HPS
Andes	アルゼンチン・チリ	<i>Oligoryzomys longicaudatus</i> (ロングテールマウス)	HPS
Laguna Negra	パラグアイ・ボリビア	<i>Calomys laucha</i> (ベスパーマウス)	HPS
Rio Mamore	ボリビア	<i>Oligoryzomys microtis</i> (ビグミーライスラット)	不明
HTN - 007	ペルー	<i>Oligoryzomys microtis</i> (ビグミーライスラット)	不明

1993年から2000年3月までの累積では238例で、平均年齢は37歳、男性が144例、183例が白人、49例がアメリカインディアンで、致死率42%であった。回顧的調査から少なくとも1959年にはすでに発生していたと考えられる。

カナダではアルバータを主として、西部で多く発生している。1994年から1999年に32例があり、うち12例(38%)死亡した。平均年齢は39歳、男性が19例(60%)である。1995年に、南米アルゼンチンで29例のHPSが報告された。1996年の春には18例の報告があった。病原性はシンノンブルウイルスと同様に強かった。シンノンブルウイルスとはウイルス学的な違いがあり、アンデスウイルスと呼ぶようになった。チリのウイルスもアンデスウイルスである。他に、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ、ボリビアおよび中米パナマで報告されている。これまでに少なくとも、アルゼンチン191例、ウルグアイ15例、チリ70例、パラグアイ34例、ブラジル12例の報告がある。

HFRSや北米のHPSのハンタウイルス感染症ではヒトからヒトへの感染が起こらないと考えられている。ところが1996年9月の南部アルゼンチンのケースでは住民と訪問者18例と、患者と関わったが当地を訪れていない12例のHPSが発生し、死亡率は50%であった。ネズミとの接触が考えられず、患者と関わったケースでヒトからヒトへの感染が起こった例である。ウイルス学的証拠も示され重要な問題となったがその後、終息し再発生は起こっていないが、今後引き続き注意を要する点である。

### 病原体

ブニヤウイルス科ハンタウイルス属のウイルスによる。RNAウイルスでマイナスの1本鎖で3分節である。80-120nmの球形粒子でエンベロープを有する。

ウイルスは宿主との関係が強く、同一種のネズミに特定のウイルスが保持されている。米国南西部のシカネズミによるHPSウイルスは当初フォーコーナーウイルスあるいはムエルトキャニオンウイルスと呼ばれたが、すぐにシンノンブルウイルスと呼ぶこととなった。コットンラットによるHPSウイルスはブラッククリークチャンネルウイルスである。アルゼンチンのライスラットによるHPSウイルスはアンデスウイルスと呼ばれる(表1)。

### 臨床症状

頻呼吸、頻脈、下背部疼痛、肺の両側性間質性の浸潤による呼吸困難が特徴的である。始めの症状は風邪の症状に似ており、咳や38度から40度の発熱がある。症状は急速に進行し呼吸困難となる。入院時に見られる臨床症状として発熱、筋痛、悪寒がほぼみられ、嘔気・嘔吐、下痢および倦怠がよくみられ、他に短呼吸、めまい、関節痛、背痛、胸痛、腹痛、発汗および咳そうがみられ、まれに鼻漏、咽喉痛がある。潜伏期は一般的には2週間である。

### 病原診断

HPSウイルスに対するIgM、IgG抗体を酵素抗体法、間接蛍光抗体法により測定する。組織免疫化学的手法を用いて、組織中に存在するウイルス抗原を検出する。RT-PCRにより遺伝子断片の遺伝子配列を調べる。ネズミの捕獲、サンプリングはエアロゾル対策を立て実施する。病原体の取扱いはバイオセーフティレベル(BSL)3または4となる。

診断にあたっては、ネズミとの接触があったかどうかを必ず聞く。

### 治療・予防

HPS患者の治療には早期の集中治療が必須で、早期の換気が必要である。ICU搬送中などにおいては酸素低下を防がなければならない。酸素飽和、体液バランスおよび血圧を注意深くモニターする必要がある。

ウイルスの自然宿主はネズミであるので、ネズミとの接触を断つことが予防上のポイントとなる。多くは、新鮮な糞または乾燥した糞、尿または唾液を吸い込むことにより感染する。ネズミの咬傷やネズミに触れたものを介して鼻、目または口を触れることでも感染はおこる。したがって、尿や糞で汚染されたほこりや食物をさける。食べ物の保管には蓋をする。家及び周囲を清潔にしネズミの巣をつくらせないようにする。しばらく使わないでネズミに汚染された小屋等の掃除には注意を要する。キャンプ等のアウトドアの活動ではネズミ対策を考える。なお本ウイルスはヒト、昆虫、ペットまたは家畜を介しては伝播することはない。

日本にはシカネズミの仲間は生息していない。ラットを宿主とするソウルウイルスは海外から日本へ持ちこまれたと考えられている。同様にHPSウイルスについても持ちこまれる可能性は否定できないが極めて低いと思われる。しかしながら、HPSウイルス感染症も念頭におくべきである。南北アメリカ大陸の発生地域に出かける場合はHPSについての現地の情報をチェックし、特にネズミとの接触について十分に注意する必要がある。パナマの発生においてはカーニバルを中止する措置がとられ、ネズミへの接触をさけるよう注意を促した。

### 発生動向調査について

報告のあった米国、カナダ等の地域で現在でもひき続き発生がみられる。本年2月中旬になって中米パナマで新たに発生しており、9例中3例が死亡している。終息に向かっているがまだ発生がある。しかしながら、南北アメリカ大陸以外では依然として報告がない。

米国では本年も発生があり、1993年から本年5月までの累積は、ニューメキシコ41例、アリゾナ27例、コロラド18例、ユタ12例をはじめカリフォルニア26例、ワシントン21例など31州で250例となっている。これら発生状況は前述の1997年6月までの内容とほぼ同じであった。

### 感染症新法の中でのハンタウイルス肺症候群の取扱い

ハンタウイルス肺症候群は第4類の全数把握疾患に定められており、診断した医師は7日以内に保健所に届け出る必要がある。報告のための基準は、以下の通りとなっている。

当該疾患を疑う症状や所見があり、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの。

- ・病原体の検出  
例：急性期の血液、尿からのウイルスの分離など
- ・病原体の遺伝子の検出  
例：PCR法など
- ・病原体に対する抗体の検出  
例：血清抗体の検出(ELISA、免疫蛍光法)など

(国立感染症研究所バイオセーフティ管理室 杉山和良)



## 読者のコーナー

投稿

<速報> 牛生レバー喫食後の腸管出血性大腸菌O157感染発症事例の続発 和歌山市  
2000年5月以降、和歌山市及び県内近隣市町村において腸管出血性大腸菌O157感染発症事例が続発している。5月には5事例発生し、患者及び感染者は14名に及んだ。全ての事例で、患者の発病前1週間以内に飲食店で焼肉を喫食していたが、4事例では牛生レバーを喫食していたことが判明した。

5事例のうちの2事例( 別々の飲食店で喫食 )は、患者及び感染者からVT1、VT2両産生のO157:H7が検出されたが、事例間でPFGEによるDNAの制限酵素切断パターン及び薬剤耐性パターンは異なっていた。他の3事例は、患者及び感染者からVT2単独産生のO157:H7が検出された。それぞれの患者は発病する前に、同一チェーンの焼肉店( 2カ所 )で喫食していた。施設のふき取り検査、食材( 患者が喫食したものは別ロット )検査及び従業員の検便でO157は検出されなかった。しかし、両店の食材が同じ食材センターから配送されていたこと、分離された菌株のPFGEパターン及び薬剤耐性パターン等の性状が各事例間で一致したことから、両焼肉店が原因施設であると推察された。

6月に入ってから、牛生レバー喫食後のO157( VT1・VT2両産生 )による感染発症事例が1例発生しており、現在、PFGE等により解析中である。

なお、上述の患者及び感染者のほとんどが牛生レバーを喫食していたことから、腸管出血性大腸菌O157感染症を予防する上で、生レバー等生肉の喫食を避ける必要がある。

和歌山市衛生研究所 森野吉晴 山下晃司 金澤祐子 上野美知 太田裕元  
北口三知世 岩崎恵子 辻澤恵都子 旅田一衛

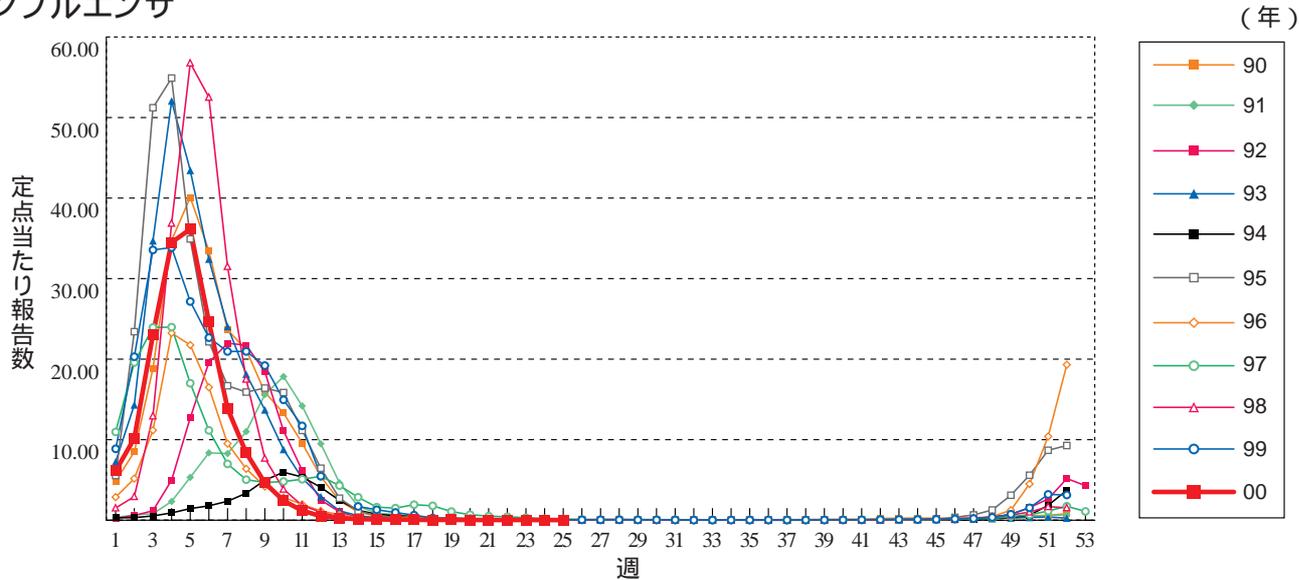
\*\*\*\*\*

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名( タイトル )の一番はじめにidwr-QをつけてこちらまでEメールでどうぞ。

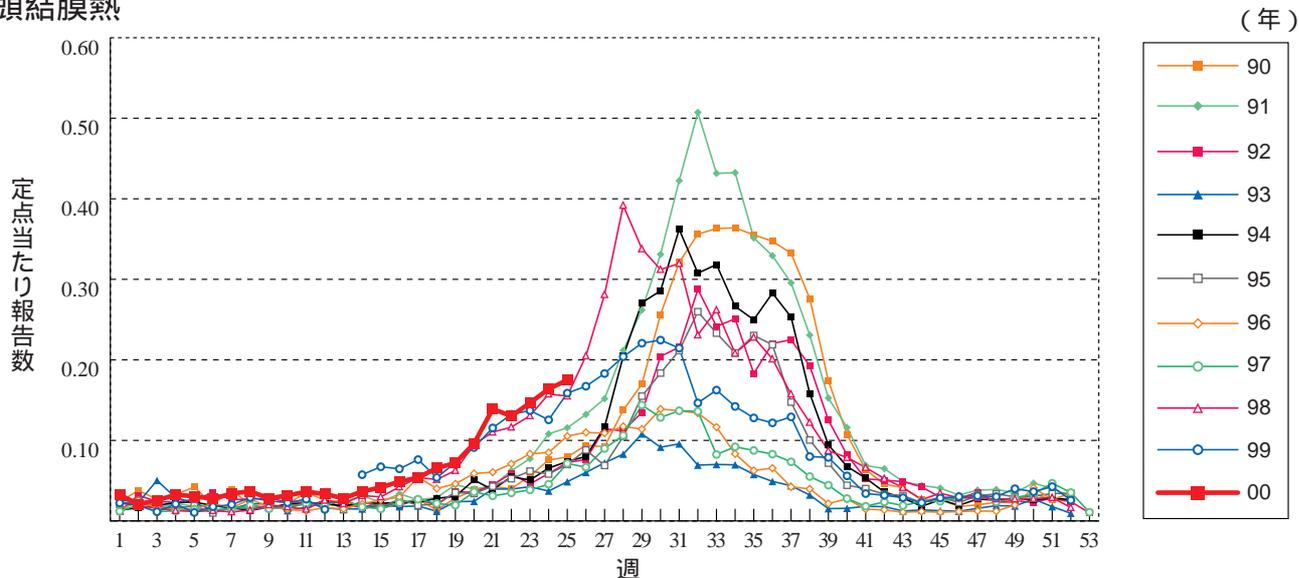
[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

**グラフ総覧(25週)**

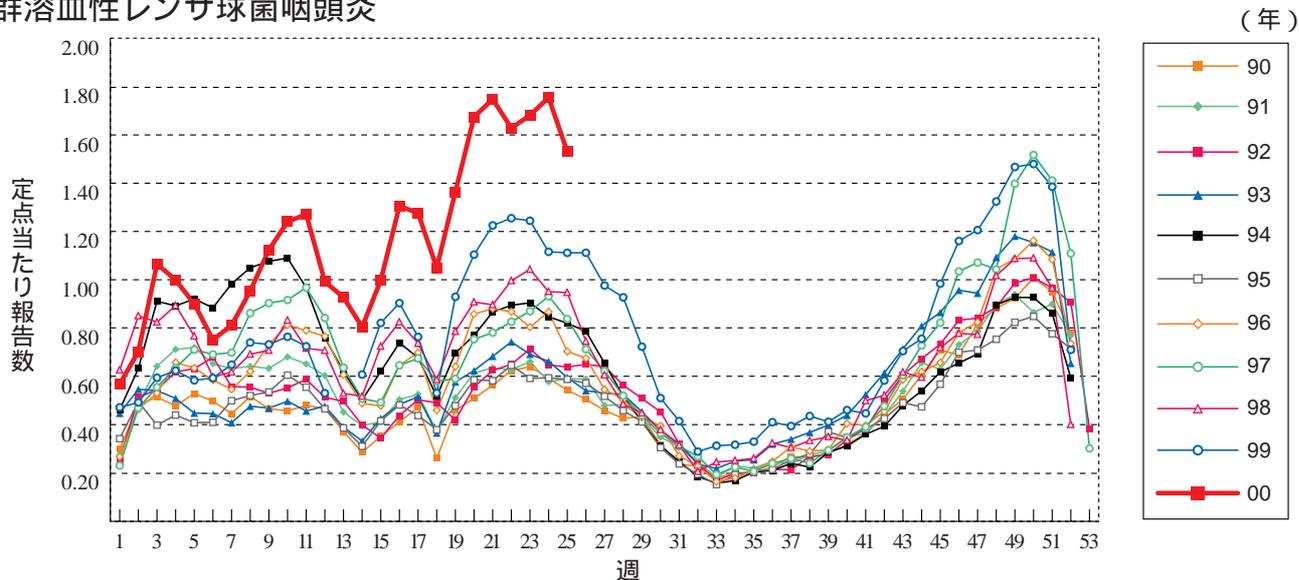
**インフルエンザ**



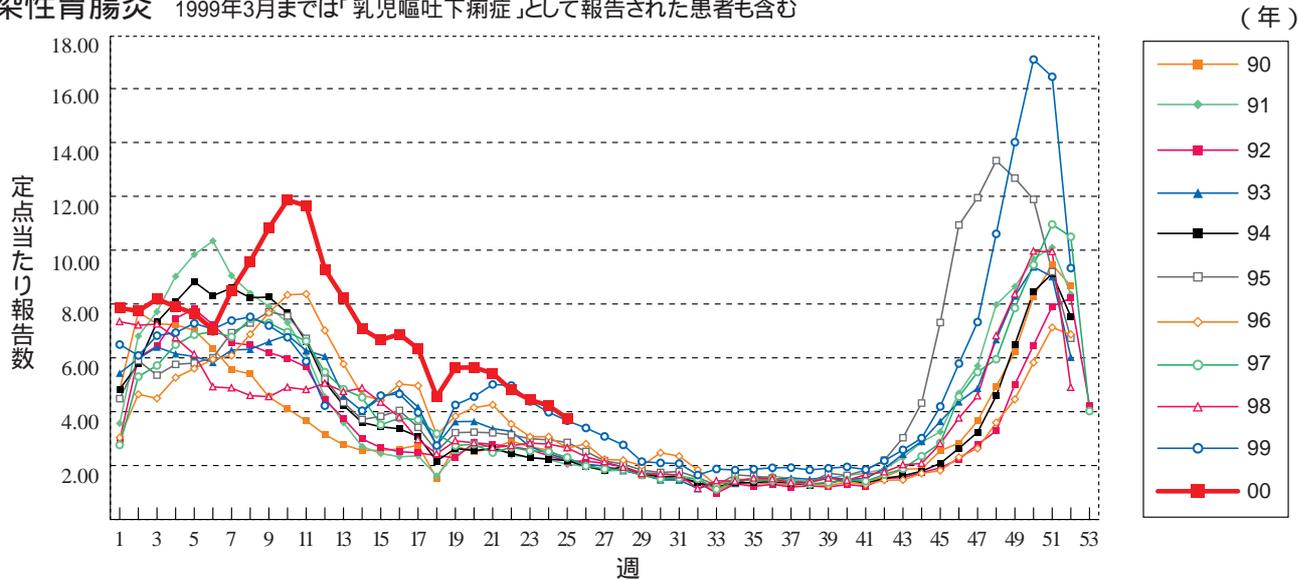
**咽頭結膜熱**



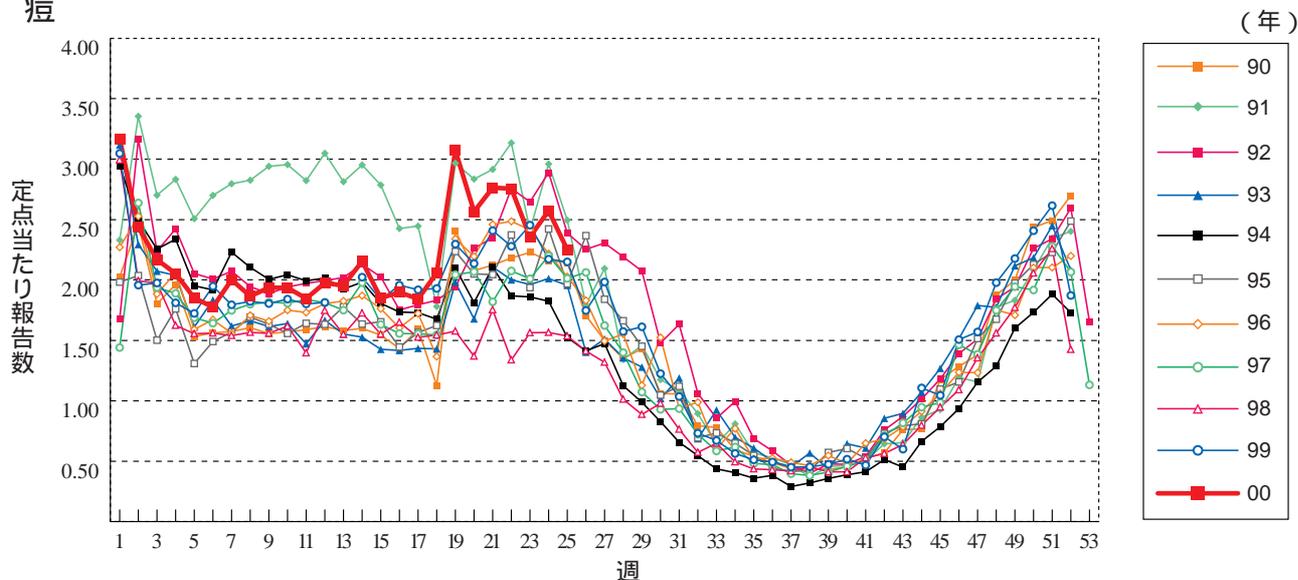
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



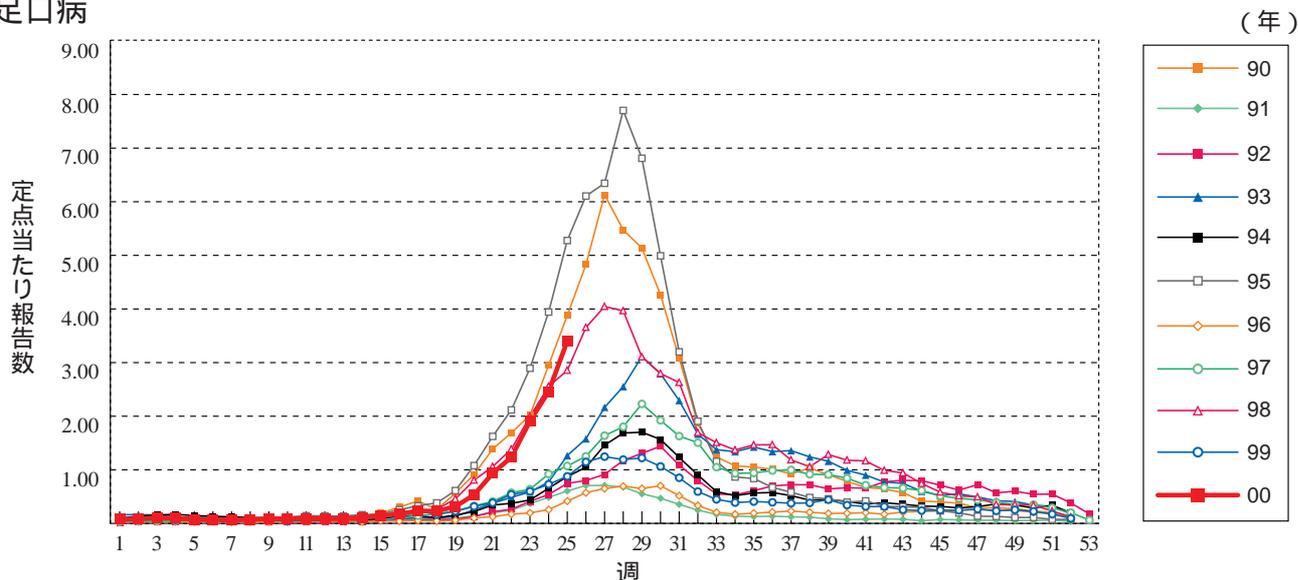
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



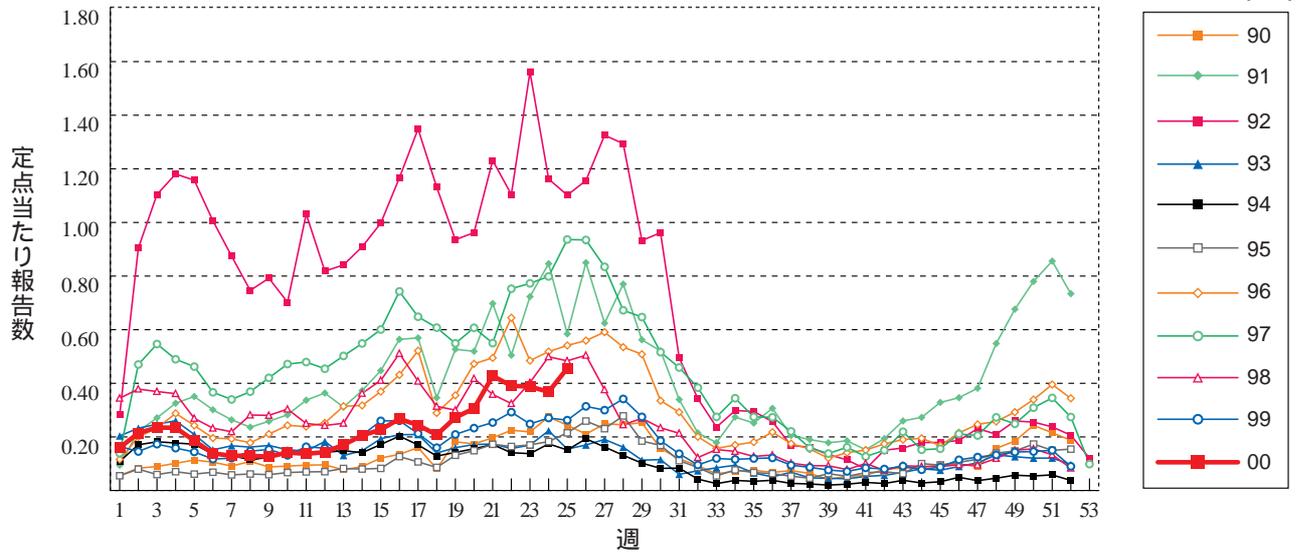
**水痘**



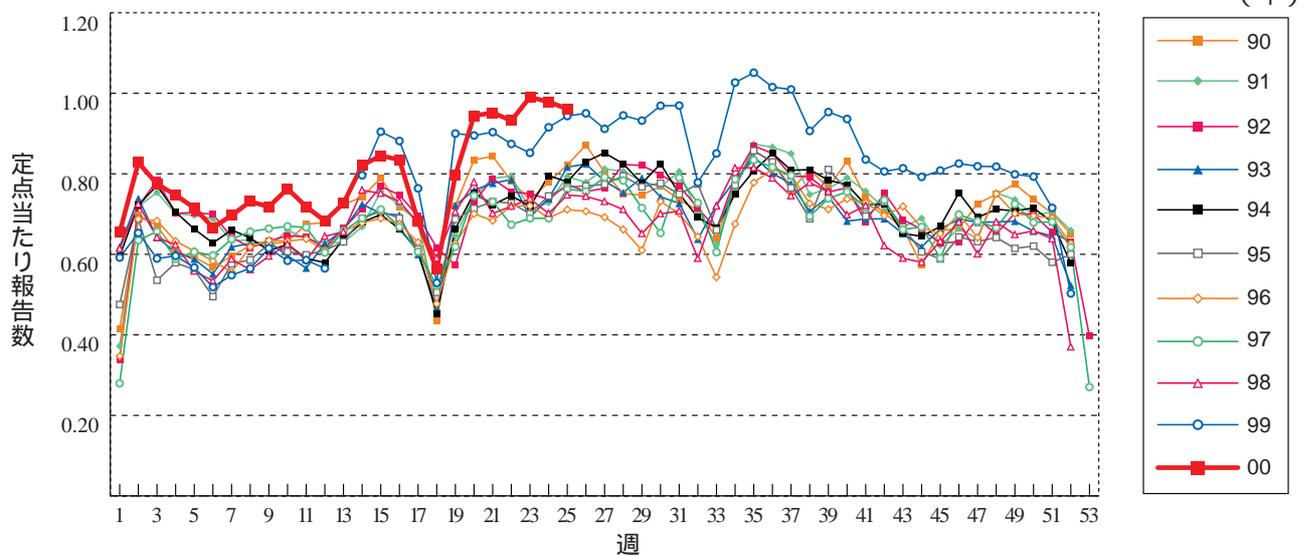
**手足口病**



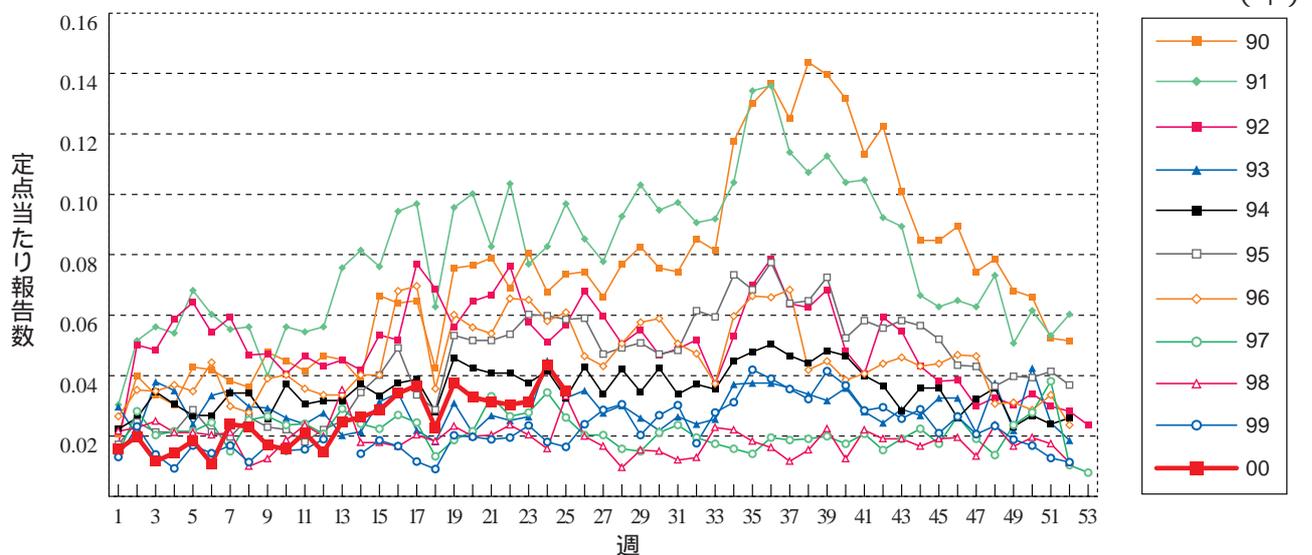
伝染性紅斑



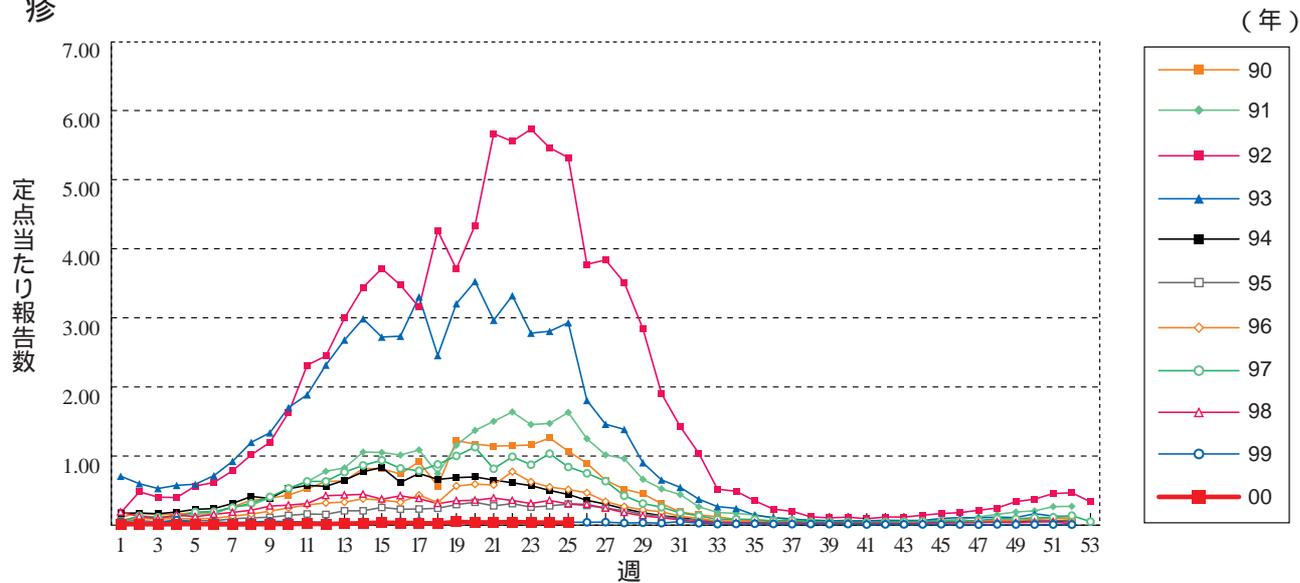
突発性発疹



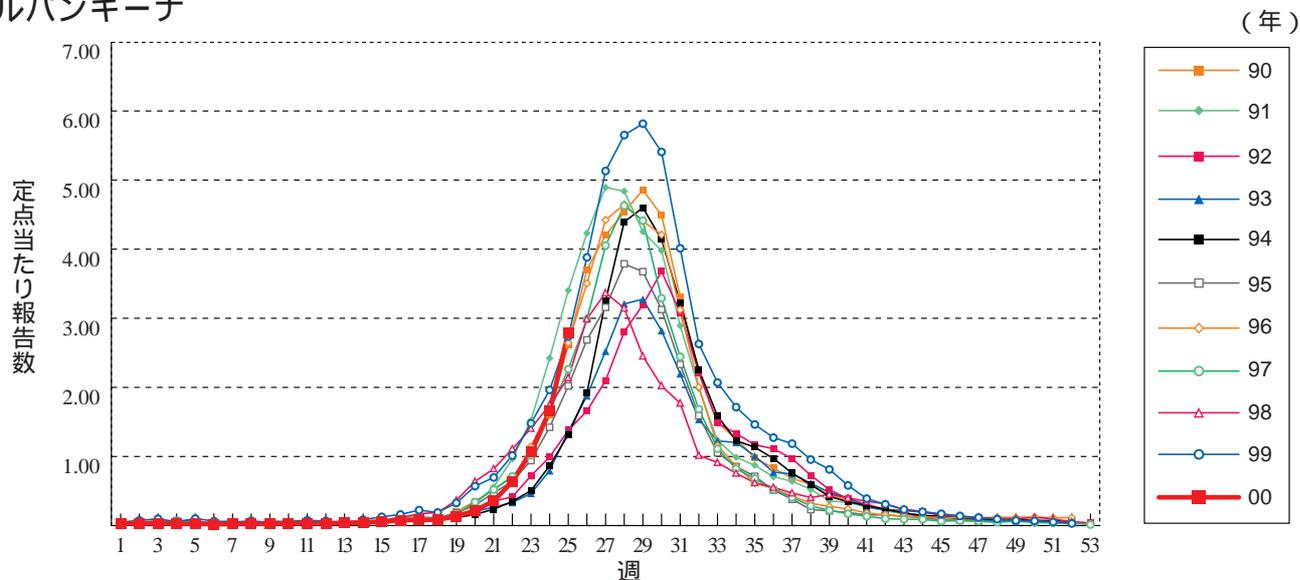
百日咳



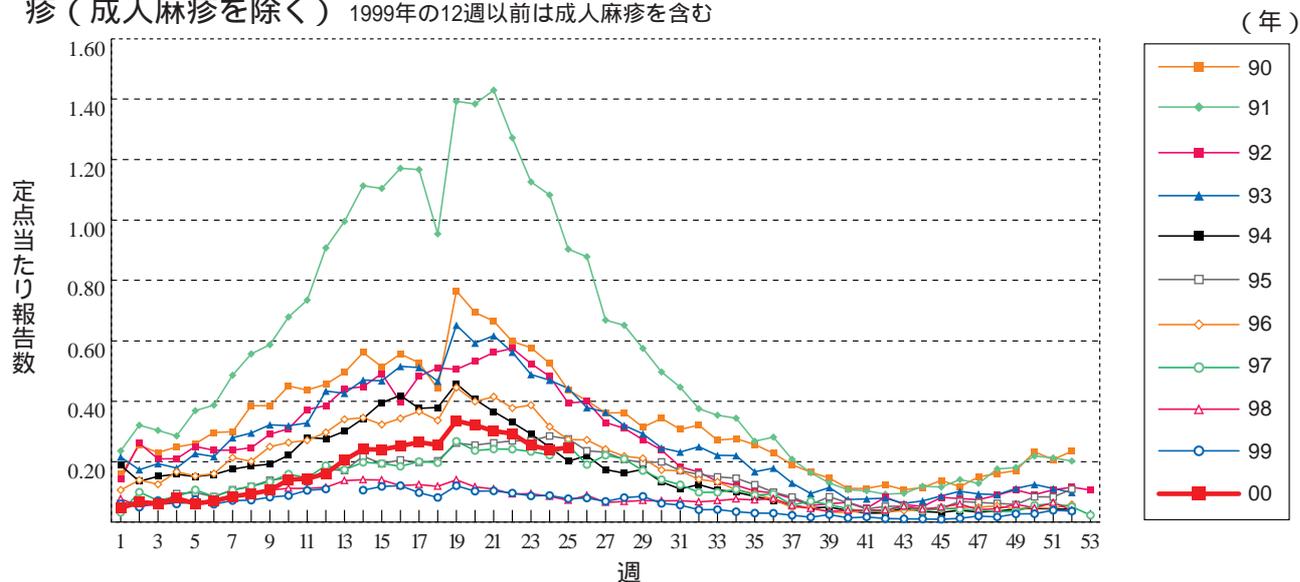
風 疹



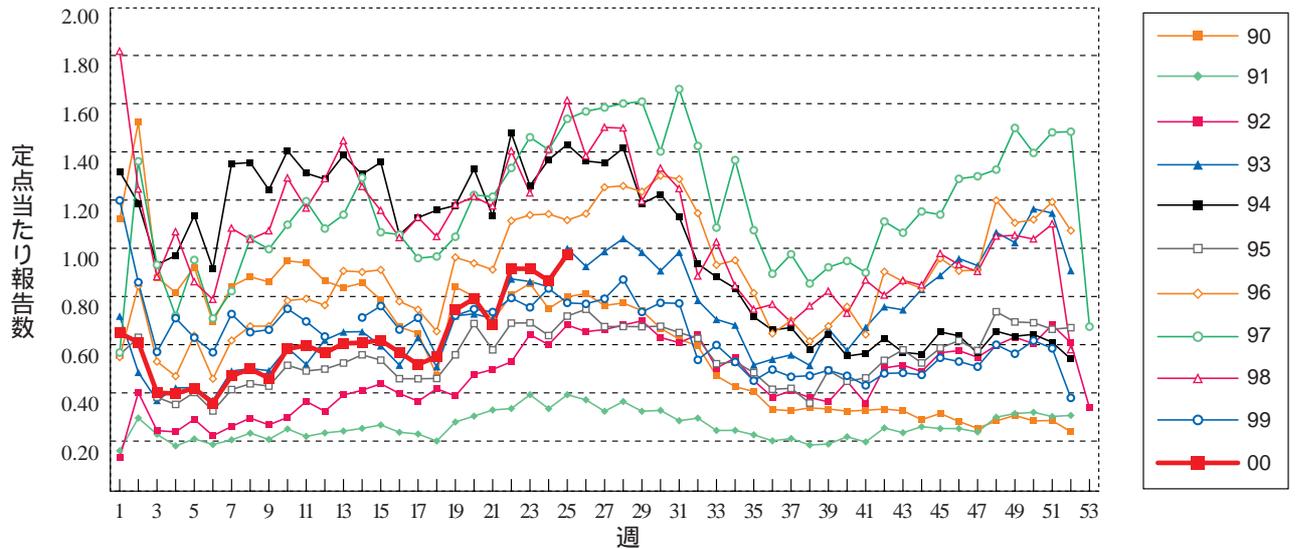
ヘルパンギーナ



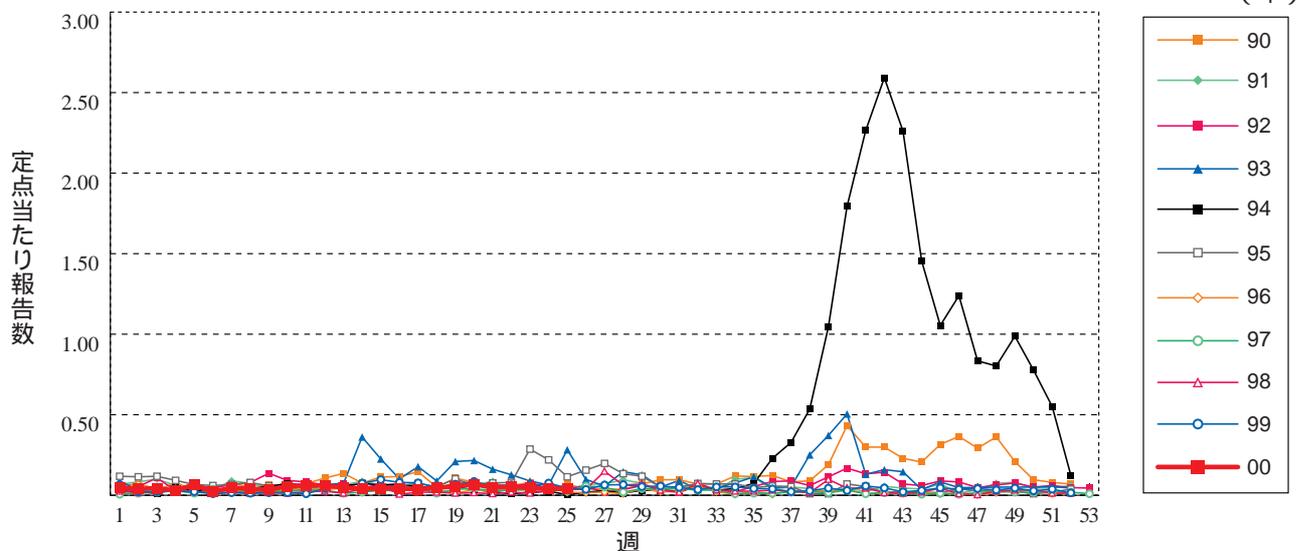
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



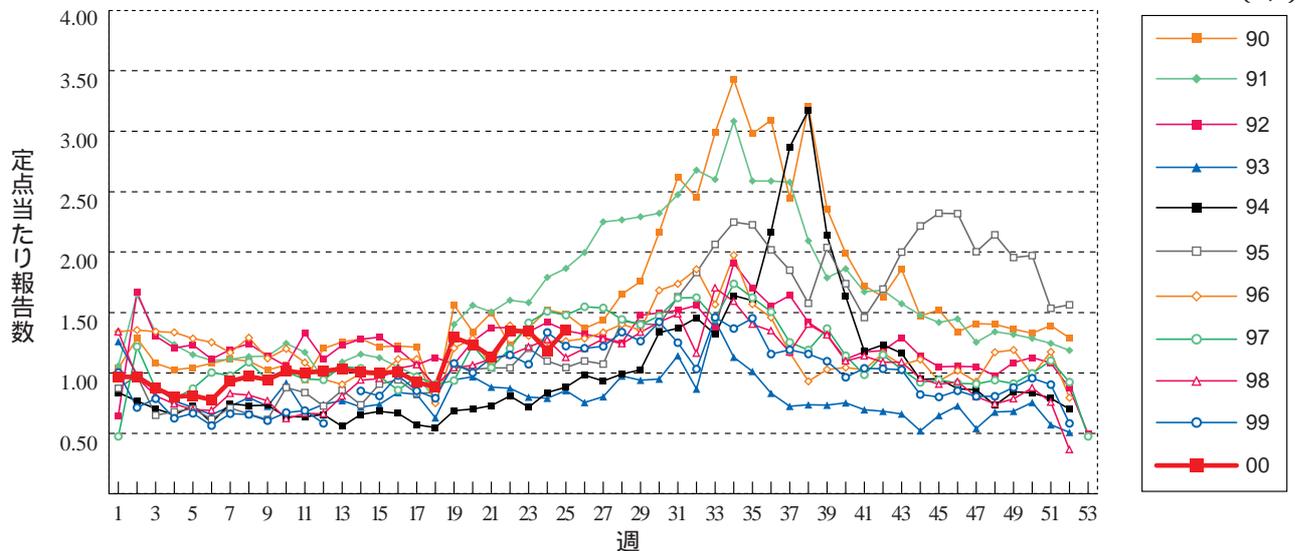
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

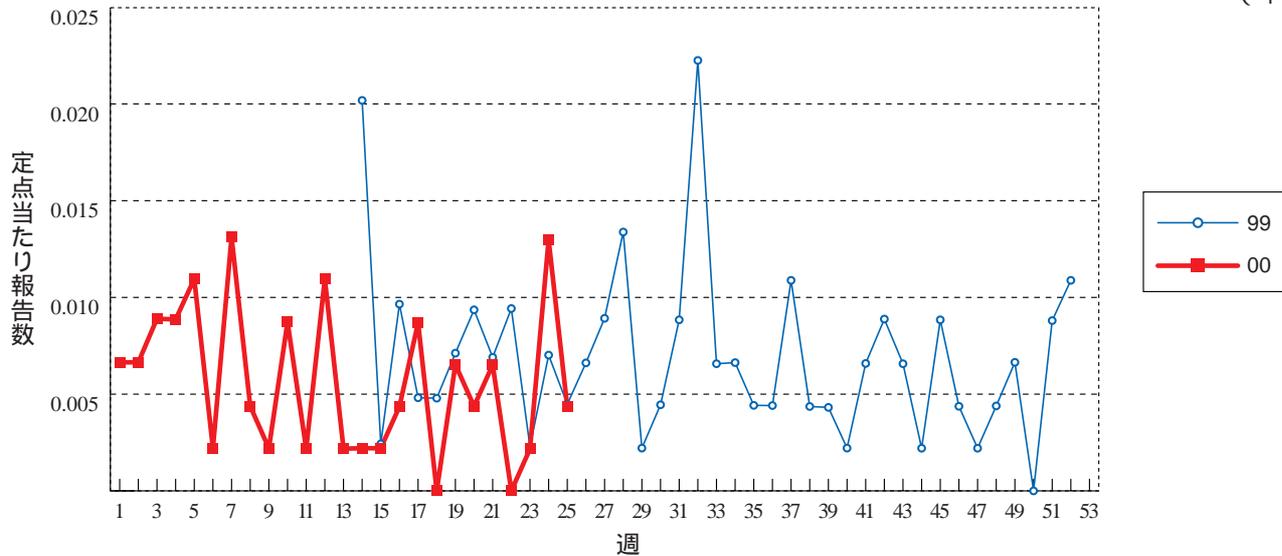


流行性角結膜炎



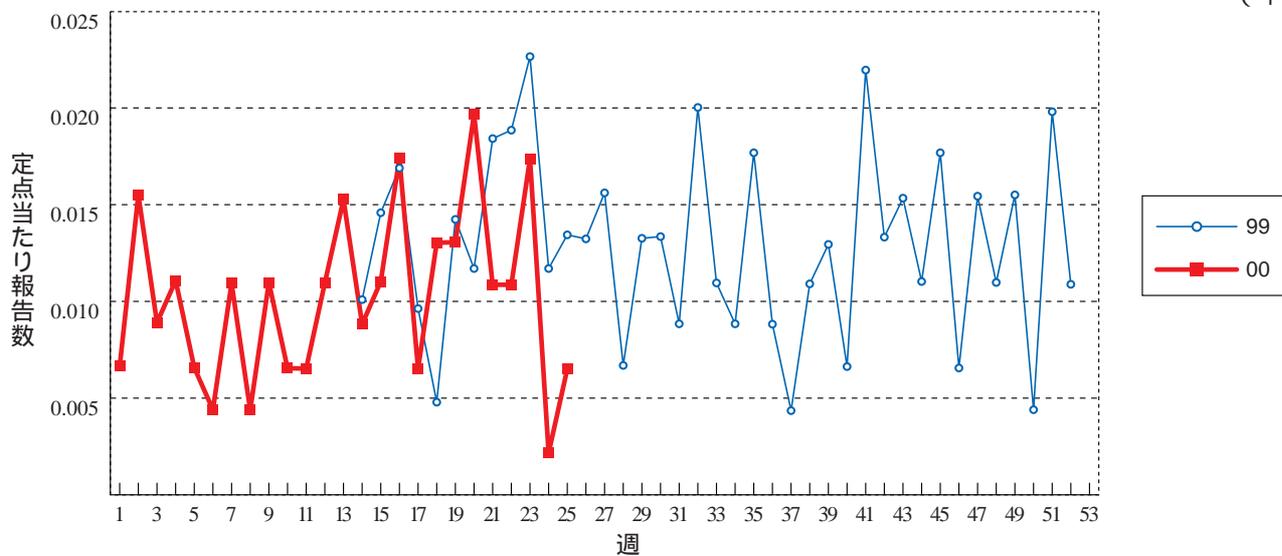
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



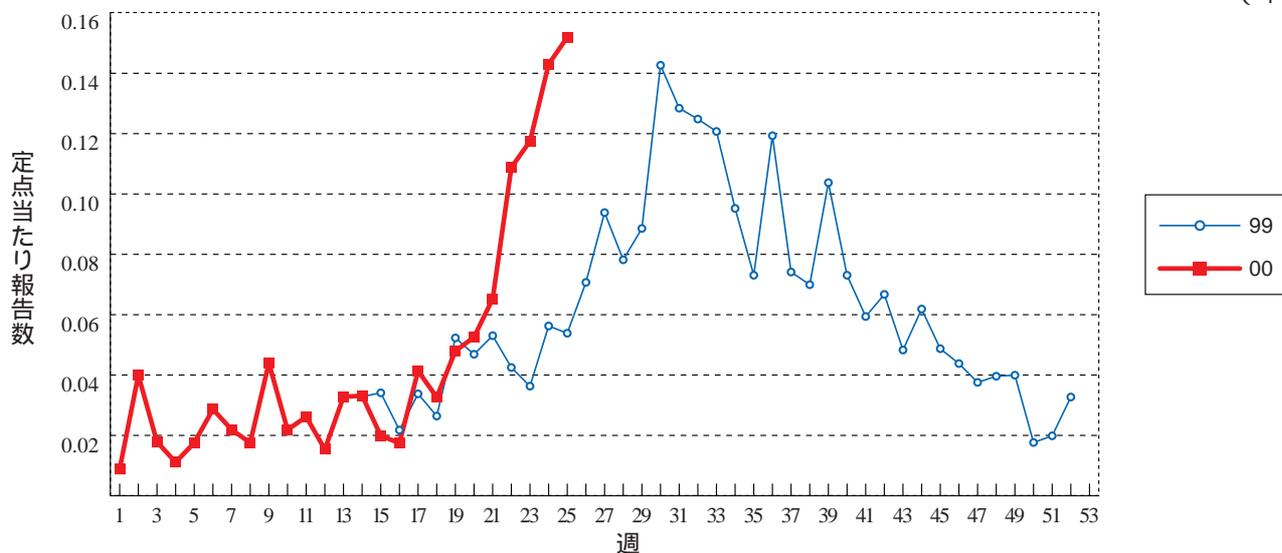
細菌性髄膜炎

(年)



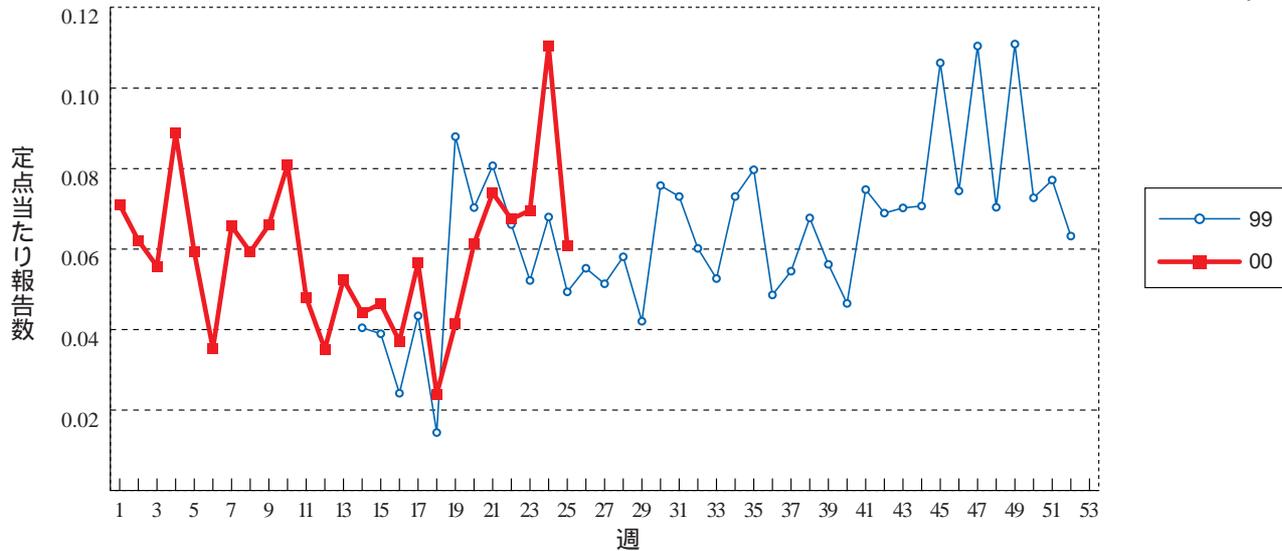
無菌性髄膜炎

(年)



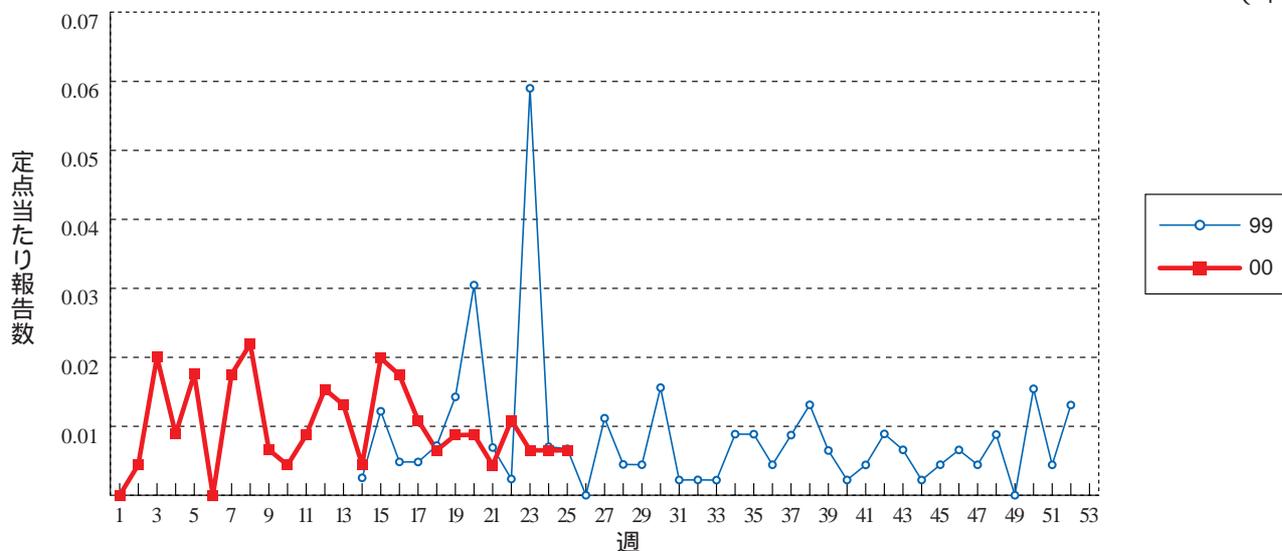
マイコプラズマ肺炎

(年)



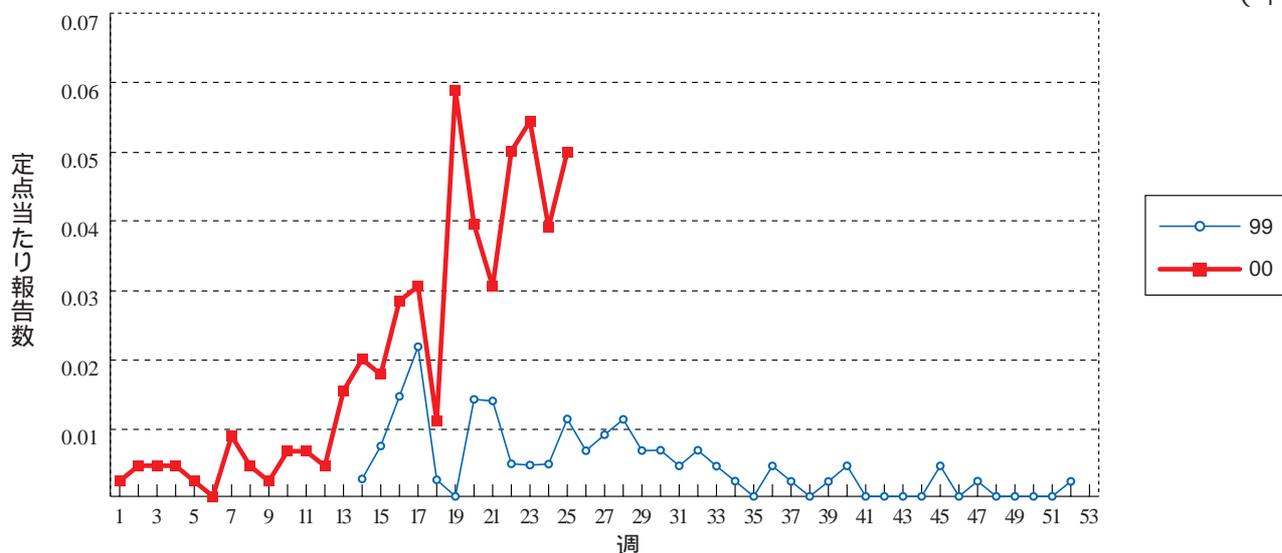
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





## 25週のデータ

注)表中の報告数は6月30日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年25週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		パラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	18	8	346	2	53	1	7
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	13	-	2	-	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	67	-	8	-	2
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	24	-	4	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	1	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	3	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	29	1	4	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	12	-	1	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	32	1	5	-	2
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	4	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年25週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	97	708	6	164	1	8	-	-	-	8	-	-	6	514
北海道	-	-	-	-	2	25	-	2	1	7	-	-	-	-	-	-	-	8
青森県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岩手県	-	-	-	-	2	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
秋田県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山形県	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	2	7	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
埼玉県	-	-	-	-	3	15	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	1	6
千葉県	-	-	-	-	2	21	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	8
東京都	-	-	-	-	7	59	2	48	-	-	-	-	-	2	-	-	-	59
神奈川県	-	-	-	-	15	41	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
新潟県	-	-	-	-	1	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
富山県	-	-	-	-	1	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
石川県	-	-	-	-	13	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
福井県	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	4	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
長野県	-	-	-	-	-	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	2	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
静岡県	-	-	-	-	-	11	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19
愛知県	-	-	-	-	5	44	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
三重県	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
滋賀県	-	-	-	-	3	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
京都府	-	-	-	-	3	16	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
大阪府	-	-	-	-	3	56	1	31	-	-	-	-	-	1	-	-	1	56
兵庫県	-	-	-	-	6	44	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	58
奈良県	-	-	-	-	1	9	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
和歌山県	-	-	-	-	3	20	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
広島県	-	-	-	-	5	20	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
山口県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
徳島県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	29
香川県	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
愛媛県	-	-	-	-	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
高知県	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福岡県	-	-	-	-	1	52	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19
佐賀県	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大分県	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
宮崎県	-	1	-	-	3	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
鹿児島県	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
沖縄県	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年25週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	6	-	-	-	2	-	45	1	26	12	324	-	1	2	50	-	-
北海道	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	22	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	1	5	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	19	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	2	2	23	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	5	-	2	6	126	-	1	-	7	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1	23	-	-	-	6	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	1	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	1	10	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	8	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	18	-	-	-	6	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	7	-	-	-	6	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年25週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	8	-	-	-	-	7	187	-	4	-	6	-	-	-	-	8	361
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
青森県	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	3	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	3	54
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	1	-	-	-	-	1	21
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	4
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	32
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年25週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	34	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	90	-	5	5	73	
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	6
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	
千葉県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	3	
東京都	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	37	-	-	-	5	
神奈川県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	1	1	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	4	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
大阪府	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	
兵庫県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
福岡県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年25週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	85	0.02	522	0.17	4569	1.53	11253	3.77	6724	2.25	10135	3.39	1359	0.46	2870	0.96	104	0.03
北海道	-	-	14	0.10	167	1.15	330	2.28	467	3.22	183	1.26	65	0.45	101	0.70	2	0.01
青森県	2	0.03	-	-	15	0.37	86	2.10	146	3.56	23	0.56	32	0.78	23	0.56	-	-
岩手県	3	0.05	-	-	49	1.29	54	1.42	80	2.11	5	0.13	39	1.03	27	0.71	-	-
宮城県	12	0.12	14	0.24	110	1.86	337	5.71	211	3.58	35	0.59	58	0.98	88	1.49	4	0.07
秋田県	3	0.05	4	0.11	47	1.34	215	6.14	100	2.86	6	0.17	11	0.31	28	0.80	-	-
山形県	5	0.11	-	-	65	2.24	128	4.41	90	3.10	235	8.10	49	1.69	37	1.28	1	0.03
福島県	-	-	15	0.31	50	1.04	196	4.08	142	2.96	24	0.50	35	0.73	35	0.73	4	0.08
茨城県	9	0.08	3	0.04	97	1.35	225	3.13	98	1.36	118	1.64	23	0.32	35	0.49	1	0.01
栃木県	-	-	-	-	74	1.64	95	2.11	98	2.18	315	7.00	3	0.07	45	1.00	1	0.02
群馬県	-	-	9	0.15	121	1.95	145	2.34	196	3.16	919	14.82	19	0.31	56	0.90	-	-
埼玉県	3	0.01	46	0.29	348	2.17	707	4.42	274	1.71	788	4.92	111	0.69	167	1.04	2	0.01
千葉県	2	0.01	24	0.18	310	2.33	395	2.97	364	2.74	300	2.26	125	0.94	126	0.95	6	0.05
東京都	-	-	11	0.08	87	0.61	410	2.89	161	1.13	248	1.75	59	0.42	91	0.64	-	-
神奈川県	15	0.05	42	0.20	314	1.53	599	2.92	374	1.82	579	2.82	202	0.99	232	1.13	-	-
新潟県	-	-	7	0.12	184	3.07	235	3.92	219	3.65	43	0.72	54	0.90	60	1.00	5	0.08
富山県	-	-	1	0.03	27	0.93	123	4.24	63	2.17	19	0.66	2	0.07	35	1.21	1	0.03
石川県	1	0.02	11	0.38	34	1.17	133	4.59	80	2.76	46	1.59	7	0.24	27	0.93	1	0.03
福井県	-	-	-	-	68	3.09	154	7.00	68	3.09	27	1.23	1	0.05	21	0.95	-	-
山梨県	4	0.10	-	-	40	1.60	65	2.60	51	2.04	7	0.28	16	0.64	10	0.40	-	-
長野県	-	-	5	0.10	98	1.92	249	4.88	141	2.76	45	0.88	40	0.78	41	0.80	2	0.04
岐阜県	3	0.04	11	0.21	101	1.91	105	1.98	128	2.42	26	0.49	2	0.04	43	0.81	1	0.02
静岡県	1	0.01	22	0.26	136	1.58	473	5.50	138	1.60	128	1.49	34	0.40	97	1.13	5	0.06
愛知県	-	-	14	0.08	288	1.58	604	3.32	351	1.93	178	0.98	98	0.54	198	1.09	3	0.02
三重県	-	-	7	0.16	72	1.60	340	7.56	109	2.42	166	3.69	3	0.07	53	1.18	1	0.02
滋賀県	3	0.06	2	0.06	42	1.35	81	2.61	66	2.13	72	2.32	-	-	24	0.77	-	-
京都府	2	0.02	1	0.01	59	0.78	315	4.14	148	1.95	121	1.59	7	0.09	55	0.72	-	-
大阪府	1	0.00	46	0.24	251	1.33	578	3.06	400	2.12	1015	5.37	26	0.14	149	0.79	14	0.07
兵庫県	-	-	50	0.41	170	1.40	660	5.45	301	2.49	336	2.78	36	0.30	149	1.23	4	0.03
奈良県	-	-	-	-	52	1.49	151	4.31	77	2.20	390	11.14	4	0.11	29	0.83	1	0.03
和歌山県	-	-	20	0.65	36	1.16	121	3.90	72	2.32	303	9.77	7	0.23	35	1.13	4	0.13
鳥取県	-	-	2	0.11	142	7.47	125	6.58	57	3.00	37	1.95	2	0.11	18	0.95	1	0.05
島根県	-	-	-	-	18	0.78	100	4.35	25	1.09	2	0.09	2	0.09	12	0.52	1	0.04
岡山県	-	-	14	0.26	54	1.00	250	4.63	79	1.46	26	0.48	24	0.44	48	0.89	7	0.13
広島県	-	-	42	0.56	72	0.96	292	3.89	143	1.91	99	1.32	23	0.31	60	0.80	3	0.04
山口県	-	-	15	0.31	85	1.73	235	4.80	174	3.55	90	1.84	2	0.04	73	1.49	5	0.10
徳島県	-	-	2	0.09	25	1.09	74	3.22	78	3.39	92	4.00	-	-	24	1.04	3	0.13
香川県	-	-	2	0.06	52	1.63	115	3.59	54	1.69	31	0.97	12	0.38	28	0.88	-	-
愛媛県	-	-	29	0.74	54	1.38	236	6.05	90	2.31	194	4.97	5	0.13	41	1.05	-	-
高知県	-	-	2	0.06	43	1.39	110	3.55	45	1.45	20	0.65	1	0.03	22	0.71	3	0.10
福岡県	-	-	4	0.05	92	1.16	404	5.11	183	2.32	630	7.97	40	0.51	89	1.13	4	0.05
佐賀県	-	-	2	0.09	35	1.52	64	2.78	37	1.61	449	19.52	9	0.39	30	1.30	2	0.09
長崎県	-	-	-	-	49	1.11	123	2.80	102	2.32	205	4.66	11	0.25	47	1.07	1	0.02
熊本県	-	-	7	0.14	61	1.24	138	2.82	135	2.76	776	15.84	12	0.24	64	1.31	2	0.04
大分県	-	-	8	0.22	40	1.11	210	5.83	113	3.14	147	4.08	22	0.61	53	1.47	1	0.03
宮崎県	-	-	10	0.27	133	3.59	201	5.43	63	1.70	65	1.76	15	0.41	53	1.43	5	0.14
鹿児島県	16	0.16	4	0.07	77	1.28	236	3.93	98	1.63	558	9.30	6	0.10	69	1.15	3	0.05
沖縄県	-	-	-	-	25	0.74	31	0.91	35	1.03	14	0.41	5	0.15	22	0.65	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年25週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	107	0.04	8340	2.79	735	0.25	2924	0.98	25	0.04	849	1.36	2	0.00	3	0.01	70	0.15
北海道	1	0.01	94	0.65	49	0.34	187	1.29	2	0.07	26	0.90	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	120	2.93	52	1.27	37	0.90	-	-	6	0.55	-	-	-	-	-	-
岩手県	5	0.13	78	2.05	4	0.11	24	0.63	-	-	12	1.00	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	295	5.00	4	0.07	13	0.22	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	63	1.80	-	-	36	1.03	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	5	0.17	-	-	12	0.41	-	-	3	0.38	-	-	-	-	3	0.33
福島県	1	0.02	195	4.06	-	-	19	0.40	-	-	16	1.33	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	229	3.18	18	0.25	32	0.44	-	-	69	4.31	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	115	2.56	21	0.47	19	0.42	1	0.08	31	2.58	1	0.17	1	0.17	-	-
群馬県	-	-	416	6.71	4	0.06	158	2.55	-	-	25	1.79	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.01	899	5.62	32	0.20	241	1.51	-	-	60	1.67	-	-	-	-	-	-
千葉県	18	0.14	1097	8.25	42	0.32	163	1.23	1	0.03	53	1.56	-	-	-	-	-	-
東京都	16	0.11	401	2.82	24	0.17	111	0.78	-	-	26	1.86	-	-	-	-	-	-
神奈川県	5	0.02	657	3.20	32	0.16	206	1.00	-	-	88	2.10	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	199	3.32	-	-	41	0.68	-	-	7	0.78	-	-	-	-	1	0.08
富山県	-	-	25	0.86	2	0.07	10	0.34	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	26	0.90	1	0.03	3	0.10	-	-	4	0.57	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	71	3.23	1	0.05	14	0.64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	10	0.40	2	0.08	5	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	2	0.04	95	1.86	1	0.02	35	0.69	3	0.30	16	1.60	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	148	2.79	16	0.30	29	0.55	-	-	9	0.82	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.02	294	3.42	3	0.03	161	1.87	-	-	21	1.00	-	-	-	-	2	0.22
愛知県	-	-	779	4.28	25	0.14	141	0.77	1	0.03	40	1.18	-	-	-	-	1	0.08
三重県	-	-	48	1.07	6	0.13	46	1.02	1	0.08	10	0.83	-	-	-	-	10	1.11
滋賀県	3	0.10	31	1.00	30	0.97	8	0.26	-	-	9	1.29	-	-	-	-	8	1.14
京都府	3	0.04	47	0.62	13	0.17	31	0.41	-	-	14	0.78	-	-	-	-	1	0.17
大阪府	10	0.05	247	1.31	175	0.93	158	0.84	4	0.08	36	0.69	1	0.13	-	-	1	0.13
兵庫県	2	0.02	210	1.74	29	0.24	121	1.00	-	-	47	1.42	-	-	-	-	2	0.14
奈良県	1	0.03	22	0.63	18	0.51	26	0.74	3	0.33	29	3.22	-	-	-	-	4	0.67
和歌山県	-	-	13	0.42	16	0.52	10	0.32	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	82	4.32	-	-	11	0.58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	9	0.39	1	0.04	19	0.83	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	115	2.13	31	0.57	54	1.00	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	157	2.09	11	0.15	76	1.01	1	0.05	27	1.35	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	99	2.02	-	-	131	2.67	-	-	3	0.33	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	20	0.87	3	0.13	4	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	83	2.59	28	0.88	34	1.06	1	0.33	8	2.67	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	117	3.00	9	0.23	35	0.90	3	0.43	24	3.43	-	-	1	0.17	3	0.50
高知県	1	0.03	82	2.65	17	0.55	33	1.06	-	-	4	1.33	-	-	-	-	2	0.29
福岡県	3	0.04	234	2.96	10	0.13	90	1.14	-	-	21	1.17	-	-	1	0.07	4	0.27
佐賀県	-	-	62	2.70	-	-	53	2.30	-	-	3	0.75	-	-	-	-	7	1.17
長崎県	-	-	39	0.89	-	-	31	0.70	4	0.50	18	2.25	-	-	-	-	-	-
熊本県	5	0.10	105	2.14	1	0.02	155	3.16	-	-	17	1.89	-	-	-	-	16	1.07
大分県	1	0.03	85	2.36	-	-	13	0.36	-	-	8	1.60	-	-	-	-	1	0.11
宮崎県	21	0.57	57	1.54	2	0.05	56	1.51	-	-	5	1.25	-	-	-	-	2	0.29
鹿児島県	-	-	55	0.92	1	0.02	22	0.37	-	-	6	1.20	-	-	-	-	1	0.08
沖縄県	1	0.03	10	0.29	1	0.03	10	0.29	-	-	25	2.50	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年25週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	28	0.06	3	0.01	23	0.05
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	6	0.30	-	-	-	-
宮城県	5	0.42	1	0.08	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	8	0.32
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	1	0.10	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	6	0.55
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-
三重県	2	0.22	-	-	-	-
滋賀県	1	0.14	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	1	0.13
兵庫県	3	0.21	-	-	3	0.21
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	1	0.09
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	1	0.20	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	1	0.13	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	4	0.80
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	0.13	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	1	0.07	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	4	0.57	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第25号 平成12年7月7日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課  
厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL： <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>  
< 国立感染症研究所 感染症情報センター >  
<http://www.mhw.go.jp/>  
< 厚生省 >  
<http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/>  
< 成田空港検疫所 >  
<http://www.forth.go.jp/>  
< 旅行者のための海外感染症情報 >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上に訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。